

令和4年度 江別市立江陽中学校 自己評価書

令和4年 2月14日
江別市立江陽中学校

1. 本年度の重点目標

「共に高め合い、粘り強く挑戦できる生徒の育成」～社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開くため

2. 自己評価結果に対する学校関係者評価

A:よい(充分達成された) B:概ねよい(概ね達成された) C:ややよくない(やや不十分) D:よくない(不十分である)

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	① 教育目標や年度の重点を意識し、共通理解に基づき、協働性をもって取り組んでいるか。	A	教育目標や重点の共通理解を十分に図り、協働体制を重視して取り組んできた。重点目標を「共に高め合い、粘り強く挑戦できる生徒の育成」～社会的変化を乗り越え 豊かな人生を切り開くために～とし、本校の課題である「学力の向上」を図るため、目的意識や目標をしっかりと持たせて結果や経過について具体的な評価をすることで、自己肯定感や自尊感情を高める取り組みを進めてきた。今年度の反省をいかし、P-D-C-Aサイクルを生かし、各教科や道徳教育、特別活動をはじめ、全ての教育活動で自尊感情を高めるために、教職員集団の情報共有と協働体制の見直しを図る。今後も、生徒、保護者、関係者アンケートを通して実態を把握し、具体策を計画的に一層充実させていく。	A A6	A A6
	② かかわりと励ましを基本とし生徒の良さが生かされる教育活動に取り組んでいるか。	A	授業や日常生活を中心に、コミュニケーションに重点を置きながら委員会活動や部活動等、あらゆる活動を通して生徒との積極的な関わりや、個々の生徒についての情報の共有、教育相談等の体制を整えてきた。また、小中一貫教育の実施に向け、小学生と合同で取り組んだ新体力テストの実施、休業中に実施した中学生による小学生への学習簿ランティア、1月に実施した生徒会と児童会の交流など、他者への思いやりや物事に一生懸命取り組むという本校生徒の良さを、小学生との交流において発揮する場面を設定することができた。今後も生徒をしっかりと把握・理解し、生徒たちに自己有用感を育んでいけるよう、行事や授業、教育相談等の一層の充実を図っていく。	A A6	A A6
	③ 保護者、地域との連携を深め信頼される学校づくりに取り組んでいるか。	A	コロナ禍の影響で今年度もPTA活動は縮小となった。中でもPTA役員やおやじの会の皆様に厚い支援をいただき、「とうきび販売」や「おやじの会」の活動を実施することが出来た。次年度については、PTA活動を可能なものから再開し、地域・保護者との連携を再構築していきたい。また、学校だよりの全地域配布・HPの公開等で情報発信に努めると共に、保護者アンケート等を取り入れた学校評価等、地域・社会に開かれた学校を目指してきた。更に、マチコミメールを使用して、情報発信の強化を行っていく。	A A6	A A6
	④ 生徒に向き合う時間の確保と職員のワークライフバランスに配慮した働き方の見直しを進めているか。	B	教職員が生徒と直接関わり向き合う時間を確保するために、「働き方改革」のコアチームを設置し、業務の見直しを図るとともに、ICTを活用した業務効率化を図ってきた。また、江別市による高速プリンターや留守番電話の導入や様々な人材活用も成果を上げている。これらの取組から、昨年度に比べて月45時間以上の超過勤務となっている職員は減ってはいるものの、超過勤務の劇的な解消には至っていない。時代や社会の要請から教育現場に求められる大きな変化に対応するため、スクラップ&ビルドを進めていく必要がある。このことからさらなる業務の精選を進めるため、地域や家庭への協力をお願いしていく。また、教職員が変化に対応できるための修養の機会の確保もすすめ、現状の課題解決のための力としたい。	A A6	A A5B1
教育課程・学習指導	① 確かな学力を育む学習活動の工夫は推進されているか。	B	研究主題「自己肯定感を持ち、確かな学びを獲得していく生徒の育成」とし、グループによる話し合い活動や学び合いを重視した授業や、学習者用端末や習熟度別学習の実践を通して、生徒が自らの課題の解決に迫る力の育成に取り組んだ。一人一人の生徒が「できた」を実感できる授業をつくるためには、さらに必要な指導方法の一層の工夫を図り、授業改革を進めていく。また、TT授業や習熟度別学習に加え、一人一台端末やデジタル教科書等のICTを活用した授業を進め、時代の要請に応じた授業の刷新を図っていく。標準学力テストや全国学力・学習状況調査の結果分析、さらに本校独自の生徒アンケート等による生徒の実態把握、課題の共有化を図り、弛まぬ授業改善を進めていく。	A A6	A A6
	② 思いやりや感謝の心を持ち、共に高め合う学年・学級集団の育成は図られているか。	A	道徳や特別活動、総合的な学習の時間等では、自分自身を見つめ、他人、集団や社会、自然等との関わりを考えさせてきた。その中で、周囲を思いやり、支え合い、認め合って活動する機会を意図的に作ることに、体験的な活動の充実を図ることにより、自己肯定感や有用感を醸成し、思いやりや感謝の心などを大切に「豊かな心」を育ててきた。また、生徒会が主体となって取り組む「いじめ撲滅集会」をはじめとした活動を支え、意識の高揚を図った。今後も、学校活動全体の中で「思いやりや感謝の気持ち」を意識させ、道徳的実践力の向上を図り落ち着いた校内生活を送らせるとともに、生徒会や学級活動、行事、集会を通して共に高め合う集団づくりを目指していく。	A A6	A A6
	③ 家庭学習の習慣化を図る、学力向上プロジェクトの推進は充実しているか。	B	生徒の基礎・基本の定着を図るためのTT指導の工夫、学習支援ボランティアによる数学の放課後学習や長期休業中の補充学習などを実施した。しかし、学習習慣についてはまだまだ定着には遠い状況である。今年度は学習者用端末の持ち帰りも始まったことからAIドリルの活用や、家庭での読書活動の啓発等を盛り込みながら、学力向上プロジェクトの刷新をはかりたい。今後も、家庭、地域の協力を得ながら、生徒の学習意欲の向上を図り、学習習慣の定着と学力の向上を一層図っていく。	A A6	A A6
	④ 生徒が生き生きと活動する学校行事等の企画や運営が適切に行われているか。	A	今年度は体育祭、学習発表会は全校で開催となった。生徒会が中心となり、創意工夫をこらした活動が展開され、生徒も教師も充実感が得ることができた。学習発表会では感染症対策を施したうえで、合唱コンクールについても実施することができ、本校の伝統である合唱の灯を絶やさずに先輩から後輩へと受け継ぐことができた。旅行的行事については、6月に1年生校外学習、7月に2年生宿泊学習、4月に3年生修学旅行を予定通り実施し、学級や学年の生徒同士のつながりを深めることができた。今後も達成感・成就感の味わえる行事等の充実を計画的に図っていく。	A A6	A A6
	⑤ 生徒一人一人の勤労観・職業観を育て、主体的に進路選択の指導が適切に行われているか。	A	今年度については1年生の総合的な学習の時間に「トウキビ販売」を題材に職業観を養いや勤労体験の機会として設定した。2年生では職場体験を実施することができなかったが、6つの企業等の人材を招き、職業講話を実施した。3年生は上級学校訪問として北海道情報大学を訪問し、大学の講義を体験し、将来の学びについて考える機会を得た。各学年とも学びをスライドにまとめ、学習発表会で代表者によるプレゼンテーションを行った。様々な職業を知ること、働くことの意義、自分の将来の夢などを踏まえた進路設計と実現のために必要な努力や課題について、一人一人の生徒が自分で考え努力できるような総合的な学習や進路指導を、今年度についても進めていく。	A A6	A A6

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒指導	① 挨拶、きまりや集団のルールを守るなど基本的な行動ができる集団づくりに努めているか。	A	校内生活指導は「挨拶」を中心にコミュニケーションを大切にした指導を進め、成果を挙げているため、さらに、安心した学校生活を送らせるために、「生徒の自己肯定感」を一層高めるさせるとともに、「日常的な生徒の様子」も把握し、指導部・学年部を核として、協働体制を確かなものとし、併せて、保護者との連携を図る取組を着実に積み上げていく。また、生徒の自主的な活動を促す指導・支援も継続して行う。	A A5B1	A A6
	② いじめ・不登校・問題行動への対応は、共通理解のもと、保護者と連携し適切に行われているか。	A	「江陽中子校いじめ防止基本方針」に基づき、未然防止・早期発見・解決に向けた意識の高揚を図った。特に今年度は不登校生徒への登校支援として別室で学習できる教室を開設したり、希望生徒が学校長とオンラインで学習をすすめる機会を設けた。また、生徒会「いじめ撲滅集会」や「中学生サミット」等、生徒自らが意識を高める取組の継続を進めた。不登校に関しては依然見られるが、昨年比で人数は大きく減っている。今後もSCやSSW、スポットケア等の関係機関との連携を十分に図り、個々に応じた相談体制を整えてるとともに、保護者との双方向での連携を大切に、適切な対応に努める。	A A6	A A6
	③ 健康や安全にかかわる指導は、適切に行われているか。	A	健康上の配慮を要する生徒の情報共有を欠かさず適切に行ってきた。また、次年度も外部機関と連携し「交通安全教室」「インターネットマナー講座」「避難訓練」「非行防止・薬物乱用防止教室」「情報モラル教室」「食育授業」「救急救命講習」などを実施し、健康・安全指導を計画的に進めていく。今後もさらに地域自治会や外部機関等を活用し活用し、継続的に効果的な指導体制を整えていく。また、新型コロナへの感染防止対策についても、北海道の感染対策レベルに応じ、遺漏のないように進めていく。	A A6	A A6
	④ 生徒会活動や学級活動は、生徒の自主性を育む活動となっているか。	A	各委員会活動、集会活動等、生徒会や生徒自身が主体的に取り組めるように指導を進めてきた。特に生活委員会では校則の見直しを行い、自分たちの生活に必要なルールづくりを進めた。行事に向けての学級活動や生徒会活動においては、生徒たちの達成感や充実感に高まりがみられるようになった。更に自己肯定感や有用感を醸成する行事・活動となるように工夫し、自主性の育成に力を入れて進めていく。	A A5B1	A A5B1
その他	① 「花と緑の江陽」の取組は適切に行われているか。	B	花壇ボランティアを中心に「花と緑の江陽」の取組を継続し、可能な範囲で充実した活動を行うことができた。また、特別支援学級の花壇、畑の整備も継続され、一層の充実を図るとともに、校内にも「花のある風景」を意識した取組が推進された。今後は、しっかりと継続させていくための活動を工夫し、PTAや地域の方々の協力を得ながら、ともに創り上げる花壇を目指し、環境整備を進めていく。	A A6	A A6
	② 心を育てるボランティア活動の取組は適切に行われているか。	A	7月に生徒会クリーンボランティア、恵明園の方のご協力をいただき窓ふきボランティアなど、生徒のボランティアを実施した。江別太小学校、豊幌小学校の児童と共同で活動に取り組み、小中一貫教育の観点からも、非常に有意義な活動となった。数年ぶりに実施できた活動であり、実際に取り組みみて見えてきた改善点などをいかし、今年度についてもさらに充実した活動となるよう、地域や校区小学校と連携して取組を進めていく。	A A6	A A6
	③ 合唱活動等を通じた、感性豊かな環境作りの推進は適切に行われているか。	A	学習発表会の合唱発表、儀式や集会での校歌や全校合唱の取組など、本校の合唱活動は生徒の誇り、伝統となっている。合唱は10月の学習発表会で3年ぶりにコンクール形式で実施した。学級の団結を高めるとともに、先輩が一生懸命に歌うのを後輩に見せることで、本校の伝統である合唱の灯を受け継ぐことができた。今後も全教職員の共通理解と関わりをもち、地域との連携を絶やさず、地域の誇りとなるとともに地域の中で育つ生徒づくりを目指していく。	A A6	A A6
	④ 校内組織の活用や交流、実践など特別支援の推進は適切に行われているか。	A	特別支援教育コーディネーターや校内特別支援教育委員会を中心に、担任や学年と連携し、生徒一人一人に寄り添い、情報共有と共通理解を図りながら取組を進めてきた。「特別支援学級」では、より充実した指導を展開している。また、特別支援教育に関する研修にも取り組み、特別な配慮や合理的配慮、個別の支援を要する生徒の指導・支援に関し、共通理解と情報の共有を深め、特別支援教育のさらなる充実を図っていく。	A A6	A A6
<p>【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒達と同じく先生・保護者にも、新しいことに挑戦できる様になり、失敗してもそれを次の力としてうけとめることが出来たらと思います。単なる「自己肯定感」という自己満足ではなく、正しく広い視点で判断することが出来る能力を養えることが豊かな人生を作っていけるとと思います。私たちが協力できることがあれば、なんなりとご相談してください。まずは、接点を多くしてコミュニケーションを取ることで見えてくることも多いと考えます。なにより先生方は、本当にご苦労様です。 ・日々の学校生活や行事を通して、先生方が子ども達のためによりよい中学校になるように考えてくださっている事がわかりました。保護者が先生を敬う、先生は保護者、生徒に真剣に向き合う関係があれば、子どもを通して学校・地域・保護者が更に上手く繋がり、それぞれが充実し生き生きとした表情が増えていくと思います。先生方の働き方はまだまだ働き過ぎが現状だと思います。更に改善できるようになる事を願っています。 ・不登校対策として、学校長のオンライン学習や別室学習等で成果が上がっている事は素晴らしい。校区小学校との連携や交流は、小中学生の意識を高める事に成ると思います。 ・先生方におかれましては、日頃より生徒ひとりひとりのためにご尽力されていることに感謝いたします。自己肯定感以前より高まってきているとのことで嬉しく思います。自分自身が認められることで、他者に対しても思いやることができ、優しく接することができるのではと思います。本人の努力や学ぶ姿勢も大切なことなので、誉めて伸ばすことだけが良いとは思いませんが、これからもひとりひとりに寄り添った声かけでより一層自己肯定感が高まることを願っています。江陽中の伝統となっているとうきび販売、ボランティア活動、合唱などは今後も取組んでいって欲しいと思います。又、江陽中、江別太小、豊幌小と小中一貫の今後の取組にも期待しております。 					